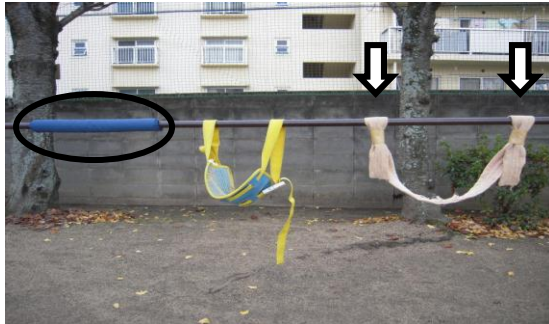


【内容】 補助具等を活用した鉄棒運動の取り組み

「鉄棒運動」

1 「活動内容」



【様々な鉄棒用補助具】

- 左… スポンジなので、膝の裏や下腹部が痛くならないようになっている。
- 中… 体格に合わせてベルトの長さが調節できるようになっている。ブランコに座るようにして使う。逆上がりのときに、体が鉄棒から離れやすい児童の練習に向いている。
- 右… 丈夫なタオル地で、↓の部分握り「中」と同じように使う。布地さえあれば多数作れ、長さの調節も簡単である。

【逆上がり練習台】

- 左… 練習台が鉄棒よりも高いので、自力で蹴って体を浮かすことが難しい児童にとっては、逆上がりの一連の動きや感覚をつかむのには向いている。
- 右… 練習台が鉄棒よりも低いので、自力で蹴って体は浮かせるようになったが、鉄棒まで届かない児童に向いている。また、板の角度が低いので、板を強く蹴ることも意識できる。



【クラスマッチを行って意欲化を図る】

全学年で「鉄棒クラスマッチ」を昨年から実施している。各学年に応じた「鉄棒がんばりカード」を低・中・高学年別に作成し、自分で技の伸びが確認できるようにしている。カードには、「技の名前」「点数」「技の絵」「練習日」を記載している。技の難易度に応じて点数が違っている。10点満点とし、満点の児童には「鉄棒名人賞」、8点または9点の児童には「努力賞」を贈り、その頑張りを称えている。学年によって、補助具を使って逆上がりができると0.5点にするなど、児童の実態に応じて工夫して実践していた。

2 児童・生徒（保護者）の反応

全校生の「鉄棒名人賞」と「鉄棒努力賞」の達成人数と、逆上がりできた人数の割合を比較すると、以下のような結果になった。

	鉄棒名人賞	鉄棒努力賞	逆上がりできた人数の割合
平成23年度	45	47人	2/3
平成24年度	71	45人	3/4

また、休み時間に鉄棒に挑戦する姿がよく見られるようになり、補助具を使用する頻度も昨年より増えてきた。

3 成果と課題

- 鉄棒クラスマッチを機会に、鉄棒運動に親しむ児童が増え、技の達成度も上がってきた。
- 高学年の支持回転系の技の難易度が高く、達成率が低い。